03

宮城県
石巻市

一般社団法人ISHINOMAKI2.0

被災した故郷を面白く「バージョンアップ」する

「世界で一番面白い街を作ろう」をモットーに、人口流出やコミュニティの希薄化といった地域課題解決に挑む一般社団法人ISHINOMAKI2.0。石巻市内外の人を巻き込んだネットワークを形成し、多方面からまちづくりを展開している。

取組のPOINT

- ヒト　支援者との出会いが転機
- 着眼点　よそ者と若者の力
- 連携・協働　オープンで緩やかな関係
- 持続性　キャリア教育に取り組む

DATA

取組主体　一般社団法人 ISHINOMAKI2.0

取組内容　地域づくり・移住推進

人物紹介

代表理事　松村 豪太（まつむら ごうた）

宮城県石巻市出身。東北大学大学院法学研究科修了。卒業後も仙台で活動していたが、震災前に石巻に帰郷、NPO法人石巻スポーツ振興サポートセンターのクラブマネジャーを務める。2011年5月にISHINOMAKI2.0を設立、代表に就任。

ヒト　支援者との出会いが転機

故郷の魅力が見つからなかった

石巻市出身の松村豪太さんは、「面白くない街」という故郷への感情を抱きながら、東北大学大学院を修了後もしばらくの間、仙台市内で過ごしていた。その後、何となく帰郷した石巻において叔父の誘いを受け「総合型地域スポーツクラブ」に取り組むNPO法人に参加した。

総合型地域スポーツクラブとは、文部科学省のスポーツ振興施策で、子どもから高齢者まで幅広い世代の人々が、それぞれの興味関心・競技レベルに合わせて、さまざまなスポーツに触れる機会を提供する地域密着型のスポーツクラブのこと。NPO法人では、運動が苦手な人や高齢者などを対象に、ウォーキングを楽しみながら街歩きを行うプログラムを実践し、地域の魅力を再発見する活動などを行ってきた。こうして、地域コミュニティづくりを経験したことが、震災後の人生に大きな影響を及ぼすことになる。

東日本大震災の発生時は、法人の事務所にいた。押し寄せた津波によって事務所が入っていたビルの１階部分天井まで浸水し、２階で避難者と共に不安な夜を過ごした。

石巻のバージョンアップを目指す

震災後はヘドロを除去するボランティア活動を始めた。毎日の活動やまちの様子をブログで発信すると、「力になりたい」と全国から人が集まってきた。そして、地元の旅館経営者や東京の建築家、大学教員、広告代理店のクリエイターなど、多彩な人たちと知り合うことができた。

電気も通っていない薄暗い建物の一室で、仲間と鍋を囲みながら、石巻の将来像を語る中、今までにない新しいまちづくり団体を立ち上げる機運が高まってきた。「閉鎖的だと感

STAND UP WEEKの一環で行われた野外上映会

被災したガレージをDIYで改修し、活動拠点IRORIに再生

地域自治システム構築支援のワークショップの様子

じていた石巻でも、このタイミングならこのまちを面白くするような、新しいことができるのではないかとワクワクした」と振り返る。

こうして、2011年5月にISHINOMAKI2.0が発足し、2012年には一般社団法人化。「2.0」には、石巻のバージョンアップ（ver.2.0）を目指し、web2.0に由来する双方向性を備えた風通しの良いまちを作りたいという意味が込められている。

着眼点　よそ者と若者の力

拠点と事業を手づくりする

単なる復興にとどまらない、持続可能な「世界一面白い街」をつくる。その思いは団体の設立当初から、今も変わらない理念である。

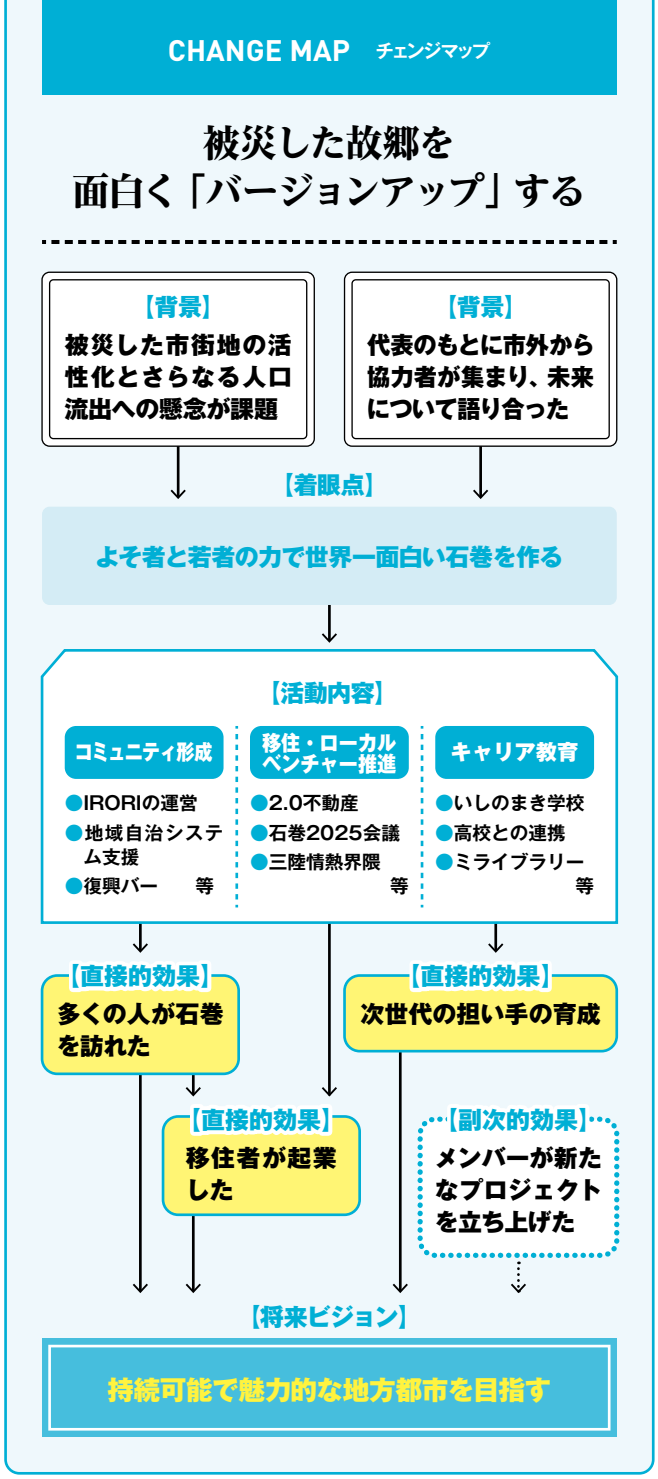
拠点の一つを担う施設であるIRORIは、「石巻を震災前に戻すのではなく、新しく作り変えたい」という同じ思いを持った人たちが、オープンにそして緩やかにつながる活動の象徴ともいえる場所。津波で被災したガレージを、2011年12月に同団体のメンバーや世界的家具メーカーの職人らがDIYで再生した。2016年に大規模な改装が行われ、オープンシェアオフィスやコーヒースタンド、多目的ホールを備える複合施設になった。

石巻の未来について考える場として、市の内外から多くの人が集まり、個性的で面白いプロジェクトがこの場所から50以上も生まれている。

まず取り組んだのは、石巻市最大の夏祭り「川開き祭り」前の約10日間で実施した手作りイベントである。この期間を石巻復興の始まりと位置づけ「STAND UP WEEK」と命名。合わせて浸水した店を改装した「復興バー」や、地域の人々の生の声を拾ったフリーペーパー「石巻VOICE」、街歩きマップなどを作った。

多くの人を呼び込む

その後も、石巻が抱える課題解決を目指す個性的な名前の



プロジェクトが立ち上がった。「復興民泊」は、被災した空き店舗や空き物件をDIYで修復し、全国から訪れる短期ボランティアの宿泊場所として提供した。利用料金をオーナーへの義援金とすることで、商店街の復興を後押しできたという。

「2.0不動産」は、長期ボランティアや被災地で起業を志す人たちの住居を紹介するインターネットサイトである。被災した市街地では、多くの建物が解体された結果、事業所や住宅不足に陥っていた。そこで、解体には踏み切れない家主と交渉し、住むことができる状態にDIYでリフォームすることで物件を確保した。

こうした取組は、「市外から来てくれるよそ者や若者こそが、石巻を面白くする起爆剤となる」という考えによるもので、実際に多くの人の流れが生まれ、後の移住推進事業やローカルベンチャー推進事業へとつながった。

連携・協働

オープンで緩やかな関係

官民・大学との連携

これまでの理念や活動のスタイルによって、幅広い連携・協働体制が構築された。

石巻市とは、復興公営住宅のコミュニティ形成支援や地域自治のシステムづくり、移住ガイドブックの制作などの事業を受託。宮城県とは移住定住推進事業やキャリア教育推進事業、国とは「みちのく潮風トレイル事業」（環境省）や「クラウドファンディング支援事業」（復興庁）で連携した。

2017年と2019年、市街地と牡鹿半島を舞台に世界中から著名なアーティストを招いて開催された「Reborn-Art Festival」では、松村さんが事務局長を務め、世界が注目した芸術祭の運営を支えた。

大学との連携にも積極的で、震災直後から発行しているフリーペーパーの制作には共に団体を立ち上げた研究者が所属する東京工業大学のゼミが携わり、調査活動やワークショップの開催など、さまざまなプロジェクトで協働している。他の大学ともワークショップやゼミなどの受け入れを行った。

姉妹プロジェクトの支え

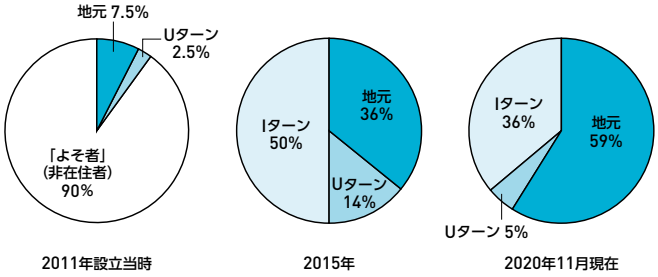
松村さんにとって心強いパートナーが、ISHINOMAKI2.0の立ち上げに協力し、その後独自の団体で活動する姉妹プロジェクトの代表者たちである。

株式会社石巻工房は、ISHINOMAKI2.0の初期メンバーの建築家やデザイナーが中心となり、地域にものづくりの場を提供したのが始まり。次第に完成品のニーズが高まり、木製家具の製作・販売が中心となると、丈夫でシンプルなデザインが評判を呼び、全国から注文が入った。2014年、法人化した際に地元出身の工房長が代表に就任し、ものづくり分野で松村さんを支えている。

また、2021年までに石巻から1000人のIT技術者を育成することを目的に立ち上がった一般社団法人イトナブは、東京でWeb制作会社を起業した地元出身者が、震災直後にUターンして立ち上げた法人。地元の工業高校を会場に、世界で活躍するエンジニアを招き、アプリ開発を行うイベントなどを展開し、現在はWeb制作会社として法人化して、ISHINOMAKI2.0にIT分野で協力している。

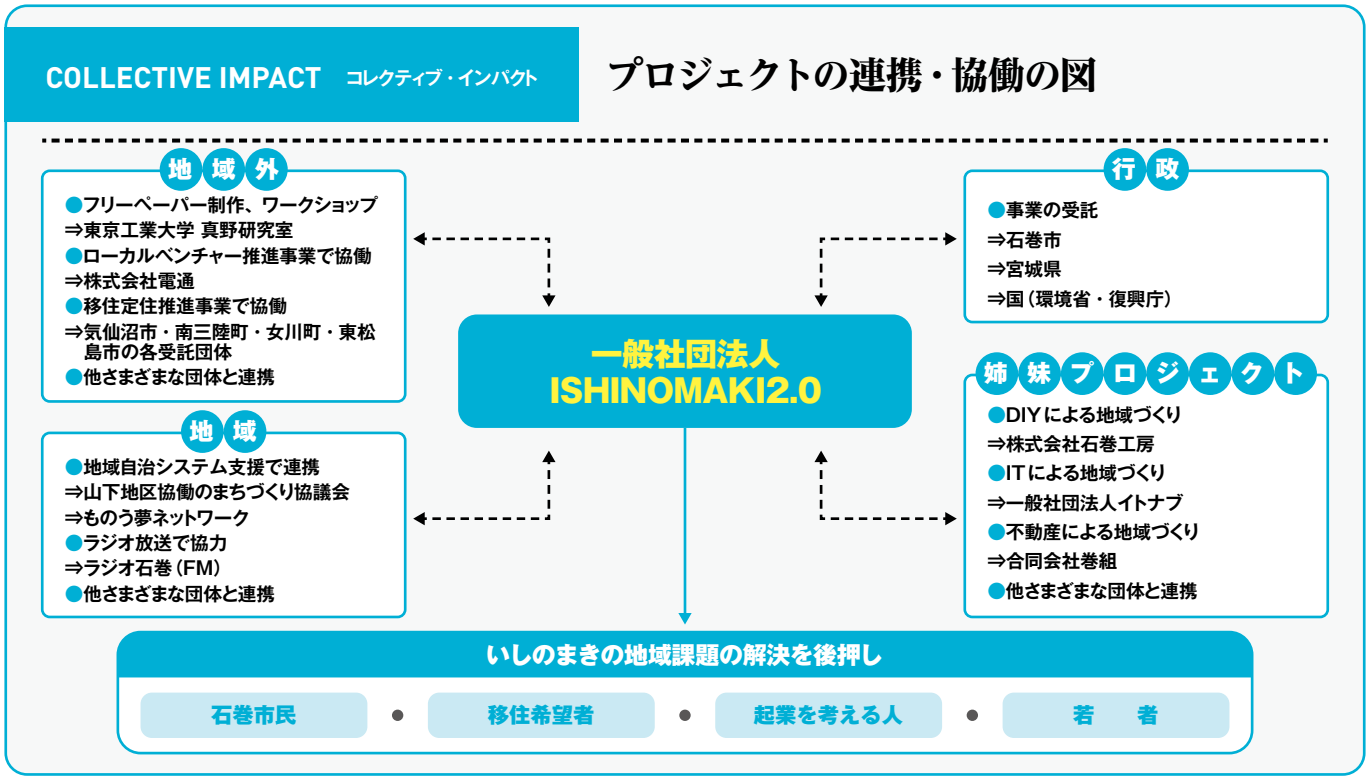
他にも、不動産による地域づくりを行う合同会社巻組など、これまで11の姉妹プロジェクトが誕生している。

■ メンバー構成の推移



「よそ者」の協力で立ち上がった団体は、地元出身者が支える組織へと移行した。

1 地域住民や移住者が地域課題について話し合う「石巻2025会議」
2 いしのまき学校で学び合う高校生
3 地域の高校で探求型学習の講師を務める
4 市から管理委託を受けた市指定文化財旧観慶丸商店



持続性

キャリア教育に取り組む

未来の担い手を育む

夏祭りを盛り上げるSTAND UP WEEKから始まったまちづくりの活動は、地域コミュニティの形成や移住の推進、被災した商店街の再生など多方面に広がりをみせた。また、数年前から始まった教育事業は、これまで築いてきた市内外の社会人とのネットワークを最大限に生かし、石巻の未来を担う高校生に向けたキャリア教育プログラムを提供している。

高校生が地域の人や仕事から学び、自分の将来について考える「いしのまき学校」をはじめ、地元の高校との連携も活発だという。

ISHINOMAKI2.0の存在は、イベントやメディアを通じて多くの若者に認知されるようになった。団体から巣立っていった姉妹プロジェクトを含め、現在は地元の若者の力が活動を支えている。

活動資金については、今後も行政への積極的な提案による委託事業の獲得や、首都圏の民間企業との連携・協働で確保していきたいという。

さらなる連携を求めて

一方で、これからは地域間の連携強化も目指していきたいそうだ。2018年から始まった「三陸情熱界隈」は、石巻市と気仙沼市、南三陸町、女川町、東松島市の宮城県沿岸部の5市町が協力し、三陸沿岸部の移住･定住を推進するプロジェクトである。これまで、東京でのキックオフイベントの開催や「お試し移住」と「婚活」をテーマにした1泊２日の地域交流ツアーを実施した。

震災から間もなく10年が経とうとしている。がれきに囲まれた薄暗い部屋から生まれた活動が「新しい東北」復興・創生顕彰を受賞し、国からも一目置かれるまでに成長を遂げたことに「誇り」を感じている。

ISHINOMAKI2.0は、復興支援団体ではない。「これから先の10年も、地域課題と向き合いながら解決を目指し、さらに『面白い街』を作っていくだけです」と語った。

本事例の問合わせ先

一般社団法人ISHINOMAKI2.0
宮城県石巻市中央2-10-2
TEL：0225-25-4953
HP：https://ishinomaki2.com

宮城県石巻市で設立以来、コミュニティづくりやローカルベンチャーや移住推進、教育事業など活動領域の幅を広げ、さまざまなアプローチから、まちづくり活動を展開している。